

岐阜県英語教育改善プラン

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

① 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の整備状況

【目標及び数値指標】

- ・別紙 目標管理書のとおり

【R3年度の状況】＜英語教育実施状況調査より＞ * ()内は前回比(R1実施)

- ・高等学校 設定 100%(-) 公表 34%(-3) 達成状況の把握 33%(-13)
- ・中学校 設定 100%(-) 公表 77%(+32) 達成状況の把握 89%(+10)
- ・小学校 設定 94% 公表 68% 達成状況の把握 86%

【現状及び課題の分析】

- ・高等学校では、全ての学校が「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を設定しているが、その目標を公表して生徒と共有し、パフォーマンステスト等を通じて達成状況を把握するところまでは徹底できていない。令和4年度からの新学習指導要領の年次進行での実施を機に、学習到達目標を見直し、公表による目標の共有と達成状況の把握により、指導と評価の一体化を推進する必要がある。
- ・中学校では、令和元年度の状況から飛躍的な改善がみられた。具体的には、公表が32%増、達成状況の把握が10%増となり、新学習指導要領の全面実施に向けた取組が功を奏したと考える。県教育委員会・教育事務所・市町村教育委員会が一体となって、教育課程研究協議会や各種研修、学校訪問等の機会に、「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の公表と達成状況の把握の重要性を伝えてきた成果である。一方、公表と達成状況の把握100%に向けては、状況分析と更なる方策を検討する必要がある。
- ・小学校では、外国語科が導入されて以降、初めての英語教育実施状況調査実施であるが、「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の設定・公表・達成状況の把握の全てが、高い数値となった。これは小中連携の成果であり、中学校での指導や評価のノウハウが小学校にも生かされたと考える。引き続き、実施状況の分析により、状況に応じた方策を講じていく必要がある。
- ・小・中・高等学校の学びの接続のため、令和4年度より新学習指導要領が年次進行で実施される高等学校では、小・中学校での実践から学ぶ必要がある。学習者の目線に立った学びの円滑な接続に向けて、教員が校種を超えた実践を学ぶ場の設定、「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の見直し、指導と評価の一体化に向けた改善に取り組む必要がある。

② 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

【目標及び数値指標】

- ・別紙 目標管理書のとおり

【R3年度の状況】＜英語教育実施状況調査より＞ * ()内は前回比(R1実施)

- ・高等学校 47%(-18)
- ・中学校 88%(-7)
- ・小学校 94%

【現状及び課題の分析】

- ・高等学校では、令和元年度と比べて、授業での言語活動の実施状況が18%減となった。これは、一昨年前からの新型コロナウイルス感染拡大を受けて、直接的なコミュニケーションが制限された影響であると考えられる。一方で、本県では令和2年度に外国語指導助手(ALT)の大幅増員を計画し、すべての県立高校の生徒が週1回程度のALTによる授業を受けられることとなった。政府の水際対策により令和2年度の来日を実現しなかったALTを含む計36名が、令和3年度中に新規来日し、生徒の英語学習環境の整備が進んだ。令和4年度中には予定数のALTが揃う見込みであるため、ALTの指導力向上及びALTと授業をする英語教員の指導力向上に向けて研修の充実を図り、授業を実際のコミュニケーションの場とするための言語活動の充実に一層取り組む必要がある。
- ・中学校においても新型コロナウイルスの感染拡大による影響がみられたものの、授業での英語使用状況は良好である。授業で実施されている英語での言語活動が、真に生徒の英語力向

上につながるものであることを確認しつつ、目標の100%達成に向けて継続した取組が必要である。

- ・小学校では、94%という高い割合で児童の英語での言語活動が行われている。多くの学校で、実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動を設定しようと取り組まれていると考える。さらに言語活動の充実を目指し、学級担任及び小学校英語専科教員の指導力をより高める研修を実施するとともに、中学校での学習への円滑な接続に向けて一層の連携が必要である。

③「話すこと」及び「書くこと」における「外国語表現の能力」を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

【目標及び数値指標】

- ・別紙 目標管理書のとおり

【R3年度の状況】＜英語教育実施状況調査より＞ * ()内は前回比(R1実施)

・高等学校	スピーキングテスト	コミュニケーション英語Ⅰ	1.0回(-)
		コミュニケーション英語Ⅱ	0.9回(-)
		コミュニケーション英語Ⅲ	0.5回(+0.3)
		英語表現Ⅰ	0.7回(-0.1)
		英語表現Ⅱ	0.7回(+0.2)
		ライティングテスト	コミュニケーション英語Ⅰ
		コミュニケーション英語Ⅱ	0.6回(+0.4)
		コミュニケーション英語Ⅲ	0.5回(+0.3)
		英語表現Ⅰ	1.1回(-)
		英語表現Ⅱ	1.4回(+0.5)
・中学校	スピーキングテスト	4.0回(+0.4)	
	ライティングテスト	3.0回(+0.1)	
・小学校	スピーキングテスト	5.4回	

【現状及び課題の分析】

- ・高等学校では、パフォーマンステストの実施回数が目標には及ばないが、令和元年度と比較して、少しずつ改善がみられる。コロナ禍においても、令和3年度より本格的に運用されている1人1台タブレット端末を活用して、新たなパフォーマンステストのあり方を模索してきた成果である。ICT活用による効果と効率を両立できる実践事例の普及を図るとともに、パフォーマンステストによる観点別評価の重要性を徹底して伝えていく必要がある。またALTの配置がパフォーマンステストの増加につながるよう、ALTに対する評価方法の研修を充実させる必要がある。
- ・中学校では、教育課程研修協議会で「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の作成例と観点別のパフォーマンステスト実施例を参考として示し、各校の実状に応じた計画・実施を促した。その成果もあり、コロナ禍においても前回調査を上回る実施状況となった。
- ・小学校では、5.4回という多くのパフォーマンステストが実施されている。これは各単元の目標が明確で、言語活動を行った後は評価を行うという流れができているからであると考えられる。継続して取り組みつつ、適切な評価時期や回数、内容をさらに議論していく必要がある。

④ 英語担当教員の授業における英語使用状況

【目標及び数値指標】

- ・別紙 目標管理書のとおり

【R3年度の状況】＜英語教育実施状況調査より＞ * ()内は前回比(R1実施)

- ・高等学校 38%(-19)
- ・中学校 87%(-3)

【現状及び課題の分析】

- ・高等学校では、教員の授業での英語使用状況の数値が低く、これは授業における生徒の英語使用状況やパフォーマンステストの実施回数が伸び悩んでいることに関連していると考えられる。生徒に身に付けさせたい力を単元の目標として明確にし、その目標に沿った指導が求められる。授業を英語で行う目的や場面を確認し、指導と評価を一体的に行う指導方法の改善が必要である。
- ・中学校では、かなり高い数値となり、高等学校とは全く異なる状況にあることが分かる。やはり、生徒の授業での英語使用状況やパフォーマンステストの実施回数との関連がみられ、「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標に基づいた指導が行われていると考える。
- ・中・高等学校の学びの接続のために、校種間のギャップをできるだけなくす必要がある。各種研修や学校訪問等で校種を超えた実践交流の場を設定することで、学習者が安心して英語学習に励む環境をつくることができ、効果的に英語力を育成することにつながる と考える。

⑤ 求められる英語力（高等学校：CEFR A2レベル相当以上／中学校：CEFR A1レベル相当以上）を有する生徒の割合

【目標及び数値指標】

- ・別紙 目標管理書のとおり

【R3年度の状況】＜英語教育実施状況調査より＞ *（ ）内は前回比(R1実施)

- ・高等学校 43%(+1)
- ・中学校 55%(-3)

【現状及び課題の分析】

- ・中・高等学校共に、求められる英語力を有する生徒の割合に大きな変化は見られない。新型コロナウイルス感染拡大が外部検定の受験機会にも影響を与えた可能性がある と考える。一方で、外部検定試験のみならず、中・高等学校がそれぞれの学習段階において生徒が身に付けるべき英語力を十分把握し、授業や定期考査の中でもその英語力の定着を一定の目標とすることも必要である。「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標と関連付け、普段の授業の中で求められる英語力を意識した指導を行い、定期考査やパフォーマンステスト等により達成状況を把握し、その定着を図ることを意識付ける必要がある。

⑥ 求められる英語力（CEFR B2レベル相当以上）を有する英語担当教員の割合

【目標及び数値指標】

- ・別紙 目標管理書のとおり

【R3年度の状況】＜英語教育実施状況調査より＞ *（ ）内は前回比(R1実施)

- ・高等学校 84%(+1)
- ・中学校 30%(+3)

【現状及び課題の分析】

- ・高等学校では、求められる英語力を有する教員の割合が増加傾向にある。4技能5領域をバランスよく指導する必要性を十分理解し、授業での実践に向けて自己研鑽に励む教員が多い と考える。現段階では、その英語力を十分に生かして授業を改善することに課題がみられるため、授業力向上推進プロジェクト委員等による実践事例を普及し、指導と評価の一体化による新学習指導要領に基づいた授業のスタンダードを周知する必要がある。
- ・中学校では、教員の英語力が十分とは言えないが、授業での英語使用については実績がある。生徒の英語力を高め、より深い学びにつながる授業実践を図るため、教員の英語力向上の機会をさらに充実させる必要がある。

⑦ 小学校の新規採用者に占める一定の英語力（CEFR B2レベル相当以上）を有する者の割合

【目標及び数値指標】

- ・別紙 目標管理書のとおり

【R3年度の状況】＜英語教育実施状況調査より＞ * ()内は前回比(R1実施)

- ・小学校教員の英語免許状所有の状況 11.5%(+2)
- ・小学校教員に占める一定の英語力を有する者の割合 2.3%(+0.4)
- ・R4年度新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合 14.5%(+0.1)

【現状及び課題の分析】

- ・小学校教員に占める一定の英語力を有する者の割合は、依然として課題がみられる。県内では、英語専科教員による指導が増加しているが、学級担任が指導している学校も少なくはない。学校内外で英語力及び英語指導力の向上に資する研修等を受けられる機会が必要である。
- ・新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合には、大きな変化がみられない。小学校教員の採用試験倍率が低下する中で人材確保が難しい局面にあるが、英語免許を所有する志願者又は一定の英語力を有する志願者が増加するよう、募集に力を入れる必要がある。そのためには、岐阜県の教育の魅力を発信すると共に、県内の教員養成系学部を有する大学等との連携の強化も必要であると考えます。

(2) (1) の目標を達成するための取組 (施策の全体像と具体的な計画)

◆令和4年に取り組む施策の全体像 (体系)

上記(1)で掲げた本県の課題解決に向けて、以下のように具体的な取組を行う。

学習指導要領に基づいた指導と評価の改善に向けて

＜学校支援課・教育事務所・市町村教育委員会＞

- 教育課程研究協議会 (小中)
- 教育課程講習会 (高)
- 英語教育推進事業 (小中)
- 授業力向上推進プロジェクト (高)
- 学校支援訪問 (小中高)
- 英語担当指導主事研修会 (小中)
- 英語担当者会議 (高)

等

＜教育研修課＞

- 経年研修 (初任/6年目/中堅)
- 選択研修
 - ・英語指導力向上講座 (小中高)
 - ・学習指導の基礎
 - ・基本指導計画と評価 (小中)
 - ・教科指導基礎力向上講座 (高)
 - ・論理的・批判的思考力育成のための実践講座 (英語) (中高)

等

生徒の英語力向上に向けて

＜学校支援課＞

- 英語スピーチコンテスト (中高)
 - 英語プレゼンテーション大会 (高)
- ＜教育研修課＞
- 英語キャンプ (高)
 - オンライン英語クラブ (高)

等

教員の指導力 (英語力) 向上に向けて

＜教育研修課＞

- 選択研修
 - ・小学校英語専科教員研修 (小)
 - ・ALTとの授業デザイン (小・中・高)
- 悉皆研修
 - ・ALT指導力向上研修
 - ・ALT地区別研修会

等

◆具体的な計画

○学習指導要領の趣旨の徹底及び指導や評価の方法について理解を深める場の充実

- ・教育課程研究協議会 (小・中学校)

学習指導要領の趣旨や内容を踏まえた具体的な指導の在り方について理解を深め、教育課程の実施に生かすために開催する。全体主題「『見方・考え方』を働かせて資質・能力を育成する各教科等の授業改善～ICT(1人1台端末等)の有効な活用を通して～」に基づいて、実践協議を行うとともに、県の重点に関わり指導助言を行う。

- ・教育課程講習会 (高等学校)

新しい学習指導要領の趣旨を周知・徹底するため、県内高等学校教諭を対象に講習会を開催する。「指導と評価の一体化」の実現に向けては、特に観点別学習状況の評価に関する具体的な方策について伝達する。また、高教研英語部会と連携し、優れた実践事例の発表機会を設ける。

○「指導と評価の一体化」のための授業改善に向けた研究や実践事例の普及の推進

・英語教育推進事業（小・中学校）

英語教育を校内研究主題等に設定し重点的に取り組む学校を「推進校」として募り、継続的に支援する。県の重点及び推進校の研究主題に沿ったモデル授業を構築し、成果の普及を図る。令和4年度は国の実証事業により、小学校高学年、中学校全学年に英語の学習者用デジタル教科書が提供される予定のため、それらを有効に活用した授業モデルの構築も進める。

・授業力向上推進プロジェクト（高等学校）

新しい学習指導要領の趣旨を実現するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組、目標に準拠した観点別学習状況評価の取組、ICT環境を生かした指導の工夫に関する研究などを基に実践事例等を作成し、県内の各高等学校における指導の充実を図る。

○ 教育センター講座の充実

研修名： 小学校英語指導力向上講座

受講対象者： 小学校教員

研修内容： 年間3回。文科省教科調査官及び大学教授による学習指導要領に基づいた授業改善講座、英語教育推進リーダー等による実践発表や実践交流を実施する。

研修名： 中学校英語指導力向上講座

受講対象者： 中学校英語教員

研修内容： 年間3回。大学教授による学習指導要領に基づいた授業改善講座、英語教育推進リーダー等による実践発表や実践交流を実施する。

研修名： 高等学校英語指導力向上講座

受講対象者： 高等学校英語教員

研修内容： 年間2回。大学教授から学習指導要領に基づいた観点別評価のポイント、指導と評価の一体化のための授業改善について学ぶ。

研修名： 学習指導の基礎・基本

受講対象者： 小学校教員、中学校英語教員

研修内容： 各2回の若手教員対象の研修。教科指導の基礎について学び、実践交流を実施する。

研修名： 授業づくりサポート

受講対象者： 小学校教員、中学校英語教員

研修内容： 各1回の若手教員対象の研修。授業に関する悩みを相談できる場を設定する。

研修名： 指導計画と評価

受講対象者： 小学校教員、中学校英語教員

研修内容： 各1回の若手教員対象の研修。年間指導計画に基づいた評価のあり方や単元の指導計画、指導案作成のポイントについて学ぶ。

研修名： 教科指導基礎力向上講座

受講対象者： 高等学校英語教員

研修内容： 年間2回の若手教員対象の研修。公開授業及び言語活動の充実や評価方法等のテーマに沿った研究会を実施する。

研修名： 大学入試問題研究講座

受講対象者： 高等学校教員

- 研修内容： 大学入試の分析から最新の出題傾向を知り、授業改善のヒントを探る。
- 研修名： 小学校英語専科教員講座
 受講対象者： 小学校英語専科教員
 研修内容： 年間2回。大学教授や県内実践者から言語活動のアイデアや効果的なフィードバックの在り方を学ぶ。研修後フォローアップ研修（自由参加）を2回実施するなどして、専科教員のネットワークを構築する。
- 研修名： 論理・批判的思考育成のための実践講座（英語）
 受講対象者： 中・高等学校英語教員
 研修内容： 高等学校で新たに設置された科目「論理・表現」を中心とし、日々の授業の中で生徒の思考力を伸ばし、発信力強化につながる指導方を学ぶ。
- 研修名： ALTとの授業デザイン研修
 受講対象者： 小学校教員、中・高等学校英語教員
 研修内容： ALTによる授業の効果を最大限に高めるため、チームティーチングによる効果的な指導方法や実践事例を学ぶ。
- 生徒の英語力向上につながる取組
- ・ 中学校英語スピーチコンテスト
 県内中学校の希望生徒対象。高円宮杯全日本中学校英語弁論大会の予選として実施するスピーチコンテスト（地区大会、県大会）への参加を通して、英語学習に対する意欲と英語運用力・発信力の向上を図るとともに、その指導の充実に資するコンテストを開催する。
 - ・ 高等学校英語スピーチコンテスト
 県内高等学校の希望生徒対象。県内6つの地区の予選で選ばれた代表20名が県大会に参加し、自分の考えや経験英語で発表する。英語運用力・発信力の向上を図るとともに、その指導の充実に資するコンテストを開催する。
 - ・ 高等学校英語プレゼンテーション大会
 県内高等学校の希望生徒対象。自身の興味や関心のある時事問題等幅広い話題について、英語で自分の考えを適切に伝える工夫をして発表する場を提供し、英語による総合的なコミュニケーション能力の向上を図る大会を開催する。
 - ・ 高等学校英語キャンプ
 県内高等学校の希望生徒対象。県教育委員会で任用しているALTが中心となり、英語力向上や異文化理解につながる対面ワークショップ等を実施する。
 - ・ 県立高校オンライン英語クラブ（年間8回開催）
 県立高等学校の希望生徒対象。毎月のテーマごとに担当ALTが中心となり、小グループでクイズやディスカッション等の活動を行い、英語力向上と異文化理解のためのオンラインイベントを開催する。
- ALTの指導力を向上させる取組
- ・ JETプログラム指導力向上研修（年2回）
 県内のJETプログラムに参加している全ALT及びALTと授業を担当する英語教員対象。外部講師による効果的な指導方法に関する講座やALTの実践交流、日本での生活や職場での悩み等についての相談等を行い、ALTの指導力向上とネットワーク構築を図る。

